



2019 9・10 第67巻8号 目次

特集 現代のいじめ問題を多角的に考える

特集にあたって

複雑化・多様化するいじめと向き合う

増田健太郎

なぜ私の子どもは自殺したのか

大澤秀明

内閉化する交友圏の病理 —— いじめ問題の社会背景

土井隆義

SNSといじめの現状と対応

安川雅史

運動部活動における体罰といじめ

庄形 篤

いじめ自殺への緊急支援

向笠章子

学校はいじめをどう見抜き対応するのか

野田正人

弁護士が行ういじめ防止授業の意義 —— その授業の内容と留意していることは? · · ·

春田久美子

希望をつくる教育デザイン アクチュアルな教養教育とは? —— J · S · ミルの

内田 良

教育のリアル 丸裸の先生が学校を変えていく

南谷和範

（再考「発達障害」） A D H D の歴史と変遷

篠山大明

希望をつくる教育デザイン アクチュアルな教養教育とは? —— J · S · ミルの

内田 良

教育論への一視点

南谷和範

特別支援教育のページ・久里浜だより! 発達障害教育推進センターと「トライアングル」プロジェクト

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

●キーワード解説「ストレスマネジメント」 61 ●五反田家の子どもたち 50 ●バリアフリー絵本の世界

篠山大明

新刊情報 41／教育と医学関連の雑誌情報

11／特集題目一覧 86／編集後記

表紙イラスト・デザイン 中尾 悠 90

複雑化・多様化する

いじめと向き合う

増田 健太郎

いじめが原因と考えられる中学生・高校生の自殺があとをたたない。二〇一三年度にいじめ防止対策推進法が制定されてから、いじめ防止対策委員会などができる、各自治体・各学校でいじめ防止対策ができる。自殺がおこったあと、第三者委員会によつて、いじめ事案の調査が行われるが、いじめと自殺との関連がないとの報告がなされ、第三者委員会そのものが再度組織される事案も増えている。

いじめは古くて新しい問題である。子ども同士のいじめだけではなく、大人のハラスメントも広義にはいじめである。いじめを受けている子どもからすれば「死にたくなる」ような行為から、外形的には叩いたりしているが、けんかの延長線上のようなもので、お互いに納得している関係が修復するものまである。

いじめは多様な形態があり、また、連続的である。しかし、「いじり」という新しい形態のいじめもあり、いじめの定義そのものが難しい状況にある。また、近年では、ツイッターやインスタグラムなどのSNSでのいじめも増加している。

ネットでのいじめは、同じ空間にいなくても、バーチャルな空間で、写真や言葉によりリアルに人の心を

ますだ・けんたろう
九州大学大学院人間環境学研究院教授。九州
大学総合臨床心理センター長、公認心理師。
臨床心理士。教育学博士。専門は臨床心理
学、教育経営学。九州大学大学院人間環境学
研究科博士課程単位取得満期退学。著書に
『不登校の子どもに何が必要か』(編著、慶應
義塾大学出版社)、二〇一六年、『特集』い
じめ・自殺』(編著)、『臨床心理学』16(6)、二
〇一六年)など。

特集にあたって

えべる。心の傷だけではなく、半永久的にネット上に残ってしまう。また、子ども同士のいじめと同列には論じられないが、教師による指導死・体罰の問題も学校には多数存在する。教師の有り様や対応が、いじめを誘発し助長していることもある。また、一人を複数でいじめているものが、自分がいじめることによって、他からいじめられないよう自分を保っている場合もある。いじめは従前にもまして複雑化・多様化している。

そこで、本特集は、改めて、いじめ問題とその対応・予防策を七名の論者で多角的に考えたいと思う。大澤氏は、ご自身の子どもさんがいじめ自殺をされた方である。自分の子どもが自殺をするという筆舌に尽くしがたい体験をされ、今でもいじめ自殺をされた保護者のもとにすぐに駆けつけ、多様なサポートをされている。土井氏はいじめの問題を社会的文脈の中でとらえ、どのように変質しているのか、その社会的文脈を読み解く中に、いじめ予防のヒントがある。情報ツールとしてのSNSは現代の児童生徒には欠かせないものであるが、安川氏がSNSでのいじめの現状とその対応について紹介する。いじめは学級の中だけではなく、部活動・スポーツクラブの中においても数多く発生する。部活動において問われている指導方法といじめの関係について庄形氏に論じてもらう。

いじめ自殺が起こったとき、どのような緊急支援が必要なのか。多数の緊急支援を行っている向笠氏にその方法を紹介してもらう。いじめ自殺・いじめは、事後対応よりも事前予防が極めて重要である。調査上のデータにはないが、いじめ予防や即時の対応によつて救われた生命は数多くあると思われる。春田氏は弁護士の立場から、いじめ防止授業を行つてゐる。いじめと法律の関係を読み解くとともに、いじめの被害者・加害者がどれだけ心理的な傷を負つてゐるかの実践的授業の紹介をしてもらう。最後に、多様化し、見えにくくなつたいじめを学校がどのように見抜き対応するのかを、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの経験があり、教育現場を熟知してゐる野田氏から論じてもらう。

いじめの調査は数多く行われてゐる。また、いじめ予防にも日々取り組んでおられる学校・教職員も多い。しかし、いじめ自殺はなくなつていらない。本特集で、一人でも多くの子どもたちの心と生命が救われることを願う。

なぜ私の子どもは自殺したのか

大澤秀明

息子の遺書

息子の自殺を知った時、私は信じられませんでした。いじめられていたことを知ったのは、秀猛の命と引き換えたのです。自殺したと聞き、私たちたただ呆然としていました。手がかりは遺書だけでした。

その日、担任の田原先生と校長が来ました。子どもの死を受け入れるだけでも大変なのに、まして自殺とは。どうしてなのかと思い悩んでいた私に、「昨日、秀猛君はニコニコしながら牛乳瓶の整理をしていたのになんて自殺したのかわかりません」。まるで人ごと

のようすに田原先生は言いました。遺書が無いのならともかく、入学式の日からずっとといじめられ続け、恐喝され、金がなくなり死にます。』と書いてあるのに、納得がいかない私は葬式を出す気持ちになれず葬式を一日延ばしてもらいました。

【秀猛の遺書】

お父さんお母さんごめんなさい。

僕がこの町にきて中一の初めの日、●●君に後ろからつつかれたり、蹴られたりされて、ついに怒って「いいかげんにしろ」と言つた。そうしたら泣かされた。その日からずっと泣かされづ

おおさわ・ひであき

NPO法人全国いじめ被害者の会代表。一九四四年長崎県生まれ。一九九六年一月に当時中学三年の息子がいじめを苦に自殺。二〇〇八年九月にNPO法人全国いじめ被害者の会設立。各政党、都道府県の教育長、文科省への申し入れ各政党陳情、全国会議員、都道府県知事、警察本部長に著書を贈呈。著書に『いじめは止められる』(創英社)二〇〇〇年、「終わらせよう、『いじめ』』(路書房、二〇一三年)。

けた。何回か先生にいつたら●●もおこつたが、僕が口が悪いと言われた。そして二年になつて口の悪いやつがいて、そいつが、いつてもないことをいつも■■君に言いつけ、なぐられつづけた。

三年になり一学期は、何もおこらなかつたので、今年は何もないだろうと思つていたら、二学期の初めの日に、▼▼に、強い人がおまえに、スープアミコンを持つて来いと言つた。と言つて來た。初めは逃げ回つていたがスープアミコンぐらい、いいと思い、わたした。そして今度は、お金を要求され、初めはわたさなかつたが、うでをおるぞと言われて、わたしてしまつた。そしてずっとお金を取られ続けている。いま三〇万円くらい取られている。

また、お金を要求された。しかし、そのお金がないので死にます。

次の日、再び校長先生と担任の田原先生が来ました。しかし、昨日と同じ答えです。遺書の内容は、すぐ伝えていたのに、『教え子を死なせてしまつて申し訳ありません』とか、『残念』という気持ちは何も伝

わつてきませんでした。私は怒りがこみ上げて来ました。校長と田原先生に秀猛の死に顔を見て欲しいと言いました。首をつって死んだ我が子の目をむいた顔を見ると無残でした。

田原先生はギクッとして顔を背けましたが、校長は顔色一つ変えず平然としていました。『この校長は一筋縄ではいかない』そう思つた私は葬式が始まる前、寺の控え室で、校長と話をしました。控え室で私は校長に、「遺書に名前が書いてある。わかっている生徒を連れてきて欲しい。焼香してもらって事実をすべて話し、謝つてくれれば全て忘れたいと思います」と頼みました。校長は私の手を両手でしつかりと握つて、「わかりました。明日連れてきます」と約束しました。次の日、来た校長に、「昨日約束したように、一日も早く遺書に名前の書いてある生徒を連れてきて欲しい」と伝えた私に校長は、「警察の取調べに任せましょう」と言つたのです。私は驚きました。

校長は、いじめが無くなるように努力すると言つておきながら原因究明もしないのでしょうか?「警察と学校では調べることが違うでしょう」と言つても、校長は聞く耳を全く持ちませんでした。